ぼくはナチにさらわれた

SZKOŁA JANCZAROW

アロイズィ・トヴァルデツキ
Alojzy Twardecki
足達和子［訳］
Adachi Kazuko

ぼくはナチにさらわれた

アロイズィ・トヴァルデツキ
Alojzy Twardecki
足達和子[訳]
Adachi Kazuko

共同通信社

◉著者紹介

アロイズィ・トヴァルデツキ(Alojzy Twardecki)

1939年生まれ。四歳のときナチにさらわれ、ドイツの孤児院に入れられる。のちに子供のないドイツ人の家庭に養子にもらわれ、少年期になって自分がポーランド人のさらわれてきた子供だったと知り、衝撃を受ける。ポーランドに帰国後、ワルシャワ大学ほかを卒業。大学の助手、通訳などを経て、現在、会社社長。

◉訳者紹介

足達和子(あだち・かずこ)

法政大学文学部卒業後、ワルシャワ大学文学部留学。ポーランド航空勤務ののち、現在翻訳に従事。著書に『日ポ・ポ日小辞典』『ガイドブック世界の民話』(共著)、訳書に『"連帯"か党か』(共著)、『贋作ショパンの手紙』『ものがたり ショパン・コンクール』がある。

ぼくはナチにさらわれた

発行日—1991年8月15日 第1刷発行

著者——アロイズィ・トヴァルデツキ(Alojzy Twardecki)

訳者——足達和子 ©Kazuko Adachi, 1991, Printed in Japan

発行人—阿部 繁

発行所—株式会社共同通信社

〒107 東京都港区赤坂1-9-20 第16興和ビル

電話・営業部(03)3584-3041・編集部(03)3586-0449 郵便振替 東京6-671

印刷所—凸版印刷株式会社

乱丁・落丁本は郵送料小社負担でお取り替えいたします。

ISBN4-7641-0265-X C0022 ※定価はカバーに表示してあります。

妻へ

目次

この手記を読まれる方に（訳者解説）……7
指令書……23
ドイツ人の友人への手紙、一通目……43
二通目の手紙……53
三通目の手紙……63
四通目の手紙……71
五通目の手紙……78
六通目の手紙……87
七通目の手紙……96
八通目の手紙……103
九通目の手紙……115
十通目の手紙……126

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

十一通目の手紙……138
十二通目の手紙……159
十三通目の手紙……177
十四通目の手紙……189
十五通目の手紙……196
十六通目の手紙……206
十七通目の手紙……216
十八通目の手紙……222
資料……233
訳者あとがき……271

装丁　菊地信義

ぼくはナチにさらわれた

この手記を読まれる方に——（訳者解説）

これは第二次世界大戦中ナチスにさらわれた小さなポーランド人の少年の物語です。

戦争中ドイツに占領されたポーランド西部の町々ではナチにより二歳から十四歳までの少年少女が大勢さらわれました。その数は二十万人以上と言われます。大変に特徴的だったのは、その子どもたちがみな青い目で金髪であったことでした。本書の著者もまた晴れた空のような真っ青な目と金髪の巻き毛がくるくると波打った少年でした。母親から引き離され、ドイツに連れ去られたときは四歳でした。孤児院に入れられ、ドイツ人の名前をつけられ、やがて子どものないドイツの家庭にもらわれた頃にはもうポーランド語も本当のママのことも忘れてしまいました。

インスブルクの町をイン川という美しい川が流れています。戦争が終わり、ドイツ帝国が崩壊してまだいくらも経たなかった頃、川の流域のアメリカ占領区にユーゴスラヴィア軍が駐留し、それがこの川を書類が流れて行くのに気づきました。拾い上げてみると聞いたことのない「レーベンスボルン」という組織のもので、それにはユーゴ人の子どもたちが名前をドイツ名に変えられ、ドイツの家

庭に養子に出されたことが書かれていました。他のスラブ民族の子どもたちも同じでした。

国連復員援護局が行方不明の子どもたちを探していると知っていたユーゴ軍はすぐヴィスバーデンに駐留していたポーランド軍に相談しました。ナチが組織的に大勢の子どもをさらったと、もう少し詳しく知っていたポーランド軍はすぐに調査を開始しました。これが「レーベンスボルン」とその幼児誘拐が調べられた最初です。

書類は上流にいたアメリカ軍のカウフマン将軍がその意味の大きさに気づかず、川に捨てさせたものと分かりました。こうして重要な証拠のほとんどが失われ、のちにニュルンベルク裁判でナチスによる幼児誘拐は、ポーランド、ユーゴスラヴィア、ルーマニア、チェコスロヴァキア、白ロシア、ノルウェー、ベルギー、デンマーク、フランス、オランダ、ルクセンブルクで少なくとも数十万人の子どもたちがさらわれていながら無罪になったのです。

「レーベンスボルン」とはいったい何でしょうか。それはドイツ語で「生命(いのち)の泉」という意味です。ヒットラーがあみ出し、ハインリヒ・ヒムラーが具体化させた、これは優秀な子どもを増やすための秘密組織でした。

ドイツは一九三三年にナチスが政権を取り、その後周辺の多くの国々を占領しました。しかし戦争による人的損失も少なくなく、また、当時ドイツが東方の国々より人口の増加率の点で低い数字を示していたことがヒットラーの強迫観念になっていました。人口が減ってはせっかく獲得した土地も治められません。どうしても子どもを大勢提供する組織が必要になったのです。それに取り組むことに

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

なったのが「レーベンスボルン」でした。

「レーベンスボルン」には二つの顔があります。一つは公的な顔、もう一つは秘密厳守の決して表に出してはならない陰の顔で、前者は子どもと母親を守る社会福祉の政策でした。しかし、この公式の部分でさえ社会に広く宣伝することは厳禁、というのも「レーベンスボルン」の保護を受けられるのは「人種的に」優れた子どもと母親だけだったからです。

「人種的に優れた」とはどういうことでしょうか。

ヒットラーは世界の民族がみな平等だなどというのは間違いだと考えました。《猿を弁護士に育てようとしても、そんなことは気違い沙汰だ》と（これは主として黒人を念頭に置いていたようです）。そして世界には三つの民族があると思いました。第一は文化の創り手、第二は文化の運び手、第三は文化の壊し手で、第一のグループに入るのはアーリア人（本来はインド・ヨーロッパ語族の意であったが、ナチスはこの語を人種的により優れたゲルマン人種の意として用いた）だけ——。今、世界で賛嘆されている学問や芸術、技術や発明はみな彼らが作り出したものだというのです。それは青い目で金髪の人種でした。

同時にヒットラーは血の〝純血〟を主張しました。《人は敗戦により滅びることはないが、〝純血〟を失ったら永遠に内的な幸福を失うのだ》と……。

ヒットラーの考えを理論化したのがアルフレート・ローゼンベルクで、その著書に「二十世紀の神話」があります。ここで彼は《「血の宗教」を無視したものは、ヒンズー人もペルシャ人も、ギリシ

ャ人もローマ人もみな没落した。ヨーロッパ北欧人も今、純血の大切さに気づかなくては大変なことになる》と警告したのでした。この本の中に「レーベンスボルン」の起源が見られます。

「レーベンスボルン」は一九三六年にテスト的に創立。ヒットラーはこの活動をヒムラーに全権委任しました。ヒムラーは全警察権力を掌中にしている点で都合が良く、また、ドイツ民族強化問題帝国長官でもありました。一九三八年三月二十四日にミュンヘンで裁判所に正式に登録。親衛隊の一部をなし、親衛隊帝国指導者（ヒムラー）に直属するものになりました。組織の目的は親衛隊員にできるだけ多くの子どもを持たせること。良き血の母親と子どもを助け、未来のエリートを育てることでした。一九三九年四月には戦死した親衛隊員の子どもとその母親を保護すると宣言。しかし、活動は直きにこれにとどまらなくなってゆきます。

一九四〇年にドイツがノルウェーを占領したことは「レーベンスボルン」の活動をとても拡げることになりました。ノルウェーは青い目で金髪の人々の国でした。ドイツ兵がノルウェーの女性に産ませた子どもたちは帝国の将来を担う宝とされ、それはフランス、ベルギー、ルクセンブルクを占領した後も同じでした。ヒムラーは「ドイツの良き血」を一滴たりとも失うなと命じました。その命に従い、「レーベンスボルン」の代表者マックス・ゾルマンはパリに、インゲ・フィルメッツはベルギー、オランダを飛び回ったのでした。

「レーベンスボルン」の陰の顔が以降大きく膨らみます。

陰の顔には二つの横顔があります。その一つは優秀なドイツ人を数多く、自然の出生を待たずに組織的に産ませることで、それは日本にも戦争中あったような普通の多産の勧めではありませんでした。

ヒットラーはかねがね健康な女が経済的理由や社会的偏見から自由にたくさんの子どもを産めないなどということがあってはならないと考え、そのためには「新しいモラル」を打ち立てなければならない、《既婚・未婚のいかんを問わず三十五歳までに四人の子どもを純血なドイツ人男性との間に作ることを義務とする。その際男性が妻帯者かどうかは問題ではなく、また、すでに四人の子どもを持つ家庭は男をこの活動に差し出さなくてはならない》としました。なかでも子どもを残すべき最も優れた人々である親衛隊員は二十六歳までに結婚することを義務とし、万一長く独身でいたり子どもがなかったりした場合、罰金を課すともしました。しかし、そうしてみても人口はそうそう増えるものではないのでした。

やがてドイツの前線で不満が起きるようになりました。というのも負傷したり病気で苦しんでいる兵隊たちが休暇をもらえないのに、立派な体格の人一倍健康な者が次々休暇をもらえているからでした。そのうちこの〝幸運な者〟たちが《〝千年の帝国〟の将来のため重要な任務に就かされている。特別の家に送られ、そこに来ている女たちを妊娠させることで食料その他の十分な保護を受ける》との噂が立ちました。

戦後、関係者の誰もが口を閉ざし、証拠も研究資料もきわめて乏しいこの問題を知るのに、とても

重要な一通の手紙があります。リューベックに住む若い女性リーゼマリア・クレンツァーが一九四四年七月十五日付でヒムラーに宛てて書いたもので、ナチズムの狂信に踊らされたリーゼマリアが、《子どもを産んで祖国に献げるための施設があると聞きましたが、志願したいのでその場所を教えてください》と書いています。

この手紙はヒムラーの手元には届きませんでした。開封した部下たちが秘密が〝一般人〟に漏れたことでの彼の怒りを恐れ、必死になって漏れた経路を探ろうとしたからでした。したがって屑籠にも行かなかったのです。

「レーベンスボルン」は約一万の会員を擁する九つの支部からなる組織でした（その後増える）。組織の活動にはユダヤ人その他の「国賊」たちから家屋敷や自動車など多くの財産が没収され当てられましたが、他の費用は男性会員の会費でまかなわれました。個人会員が約十二ライヒスマルク、法人が三十ライヒスマルクで、高級司令官の場合、給料の約十分の一の金額でした。

会員になれるのは男は親衛隊員などの高級将校（一九四二年以降は親衛隊員は全員加入が義務づけられた）、女はアーリア人種としての特徴が祖父母の代まで認められた遺伝的資質の優れた者で、のちに枠が拡げられ、ドイツ人でなくてもナチの基準に合えば入れられるようになります。大切なのは目の色、髪の毛の色、そしてことに頭の形で、例えば丸い頭の者は全くチャンスがないのでした。

こうして優れた男たちと、「ドイツ女子会」などから選ばれた若い女性たちが相手の選択の余地はなく、愛ともエロチシズムともかかわりなしに、ただ子どもを「生産」するだけのために結ばれたの

でした。数日後軍務に復帰する男たちとあとに残る女たちとはいっさいかかわりがなくなります。

女は子どもを孕むと身二つになるまで「レーベンスボルン」の手厚い保護を受けます。子どもは生まれると同時に、その後は国家が養育するので母親から引き離され、「子どもの家」に送られます。二親の最良の遺伝子を受け継ぐ子どもたちは将来ドイツを担うエリートになるはずでした。七歳になると「レーベンスボルン」と緊密に協力する国民学校に入学しました。

ところで希望者がこうするのはさほど問題ではありません。しかし問題は次第にそれに限らなくなったことで、「希望しない」と言えなくなる状況が作り出されたことでした。ことに他民族の女性、それも女囚に強制力をもって及んだこと――この段階から犯罪の領域に入ります。

陰の顔のもう一つの横顔は――こちらが本書の主題ですが――他民族の子どもの誘拐ないしは略奪でした。子どもを組織的に〝生産・飼育〟してみたところで、時間がなんといっても十カ月もかかり、もどかしいのでした。「レーベンスボルン」はもっと手っ取り早い方法を考えるようになります。

一九四〇年五月にヒムラーは東方の六歳から十歳までの子どもたちを毎年人種選別する計画を立てました（のちに年齢の枠は拡げられる）。「東方の異人種の取り扱いについて思う」という文書があります。《選別された子どもたちはドイツに運ばれ、姓名をドイツ語に変えられたのち法律上ドイツ人と同等に扱われる。これを今後十年間着実に行えば、ポーランドには価値の低い、ドイツに奉仕するための下積み労働者しかいなくなる》というもので、ヒットラーはこの計画を「正しい」と言って認めました。

選別には厳しい基準がありました。――背丈、体格、姿勢、下肢の長さ、頭の形、後頭部、顔の形、鼻孔、鼻の高さ、鼻の広さ、頬骨、目の位置、まぶたの切れ、まぶたのひだ、唇、頬、髪の毛の生えぎわ、体毛、髪の毛の色、目の色、肌の色……これらがそれぞれ五段階に分かれます。例えば、とても高い、高い、中くらい、小さい、とても小さい。あるいは、目立たない、少し見える、見える、顕著である。とても顕著である。または、痩せている、やや豊か、豊か、太っている、肥満、という具合です。目の色は一番良いのはむろん青でした。そのあとが灰青色、灰緑色、明るい茶、暗い茶です。遺伝病や生物学的に良くない特徴、伝染病などが見逃されないのはむろん、座高、体重も大事でした。

各人種は省略記号で、N、F、D、W、O、O_b、V_a、O_r、A_a、M、N_g、および人種的に不明なタイプ、と表わされました。例えばN－F－O_bなら北欧ファレン東方バルチック型で、これはドイツ化に適するとされた人種でした。

名前をドイツ語に変えるときの変え方もナチスは厳密に決めました。一九四二年九月十七日付の「親衛隊人種・拓殖問題主要局局長の指令」というものがあります。

まず出来るだけ本名の語源ないしは発音に近いドイツ名を付けること。それには新しい名前と以前の名前が似ている方が子どもの記憶の中で混合しやすい、一つに溶けやすいとの心理学的な配慮がなされていたのです。例えばポーランド名が Sosnowska（ソスノフスカ）だったら新しいドイツ名は Sosemann（ゾーゼマン）、ポーランド名が Florencki（フロレンツキ）だったらドイツ名は Flohn（フローン）にする。しかし、こうした工夫のしようがない場

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com